

眼科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	人工知能を使った眼底写真による網膜疾患の視機能予測
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	眼科
研究責任者	(職名) 医員助教 (氏名) 笹島裕史
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	機関名 広島大学 責任者名 田淵 仁志
研究の意義・目的	本研究では、網膜静脈分枝閉塞症患者における非侵襲的に得られる眼底画像と検査データを用いて、その眼底画像に対して機械学習アルゴリズムの1つである Deep Learning を用いた画像処理技術による視機能の予測について解析をすることが目的です。
対象となる患者さん	2014年4月から2024年8月までに網膜疾患と診断された患者さん
研究の方法	今回の研究では、カルテによる診療情報をもとに、網膜静脈分枝閉塞症患者さんの、年齢、性別、疾患のある眼の左右、症状出現時から画像取得時までの期間、画像取得時の視力、6か月後の視力、12か月後の視力、12か月までの治療内容及びその治療回数を調べ、得られたデータを匿名化した状態（個人の識別ができない状態）で研究主施設にデータを送信し、人工知能を用いて初診時に得られた眼底画像による視機能を予測することが可能であるか調査します。研究内容の詳細及び具体的な研究計画に関しましては、研究責任者までお問い合わせください。 調査は愛知医科大学を含む約10施設で行い、愛知医科大学では80例程度を対象とします。 この研究に参加することで、あなたに特別な負担はありません。また、当院での本研究は、眼科の奨学研究費を使用します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2024年12月31日
研究に用いる試料・情報	試料：なし 情報：カルテ上の診療情報等
外部への試料・情報の提供	外部提供先：広島大学 提供方法：当院から、主たる研究施設である広島大学にデータを送付する際は、

	対象者のプライバシーを守るために、匿名化し、対応表は、ネットのつながっていない PC で研究担当者が管理します。データは研究期間終了後 5 年間保存し廃棄します。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部眼科学講座 担当者：(職名) 医員助教 (氏名) 笹島裕史 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311 (内線 22181)